

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2016年4月30日】

団体名 自立援助ホームカムイ

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

職員の資質向上の為の研修と職員のネットワークづくり事業

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

当自立援助ホーム職員の資質向上の為、ホーム長研修と自立援助ホーム全国大会に参加する。又、北海道内の自立援助ホーム職員との情報交換と女性職員研修や行政主催の研修にも参加し、スキルアップとともに、ネットワークづくりに力を入れる。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

1. 入居者が増えてくると、より支援の精度を上げなければならないが、自立援助ホームについての勉強会が少ない為、今年度は確実に参加し現場に還元したい。

又、北海道内の自立援助ホームに関係する研修に参加し、スキルアップに繋げることと、他自立援助ホーム等との職員との交流を通して、より強いネットワークづくりを行う。

- ① ホーム長研修の参加(ホーム長)
- ② 自立援助ホーム全国大会への参加(指導員3名、指導員補助1名)
- ③ 全道若年者支援研修会(相談員1名、指導員補助1名)

研修に参加した際は速やかにレポートを作成しホーム内の研修で還元する。

又、また、研修に行った際は、他自立援助ホームの見学と、情報共有の機会を持ちその記録も、載せられる範囲で記録として残し、職員ミーティングで報告する。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

普段全国の自立援助ホーム関係者と接点のあるホーム長以外の職員が他のホームの職員と情報共有等を行い、今後支援をしていく上での連携をしていける体制づくりと孤立防止を意識しながら進めました。

今年度は自立援助ホーム全国大会に4名、若年者支援研修会に2名もの職員が参加することができ、学びにも繋がったが、他のホームの職員と情報共有や問題意識についての議論ができたことが、ホームに帰ってきた後の振り返りの会議の場でも話題としてあがり、いろいろな例を通して事例検討等を行うことができました。また、悩んでいること等、他のホームの職員にメール等で意見を聞けるようなパイプができたことも最大の効果と考えています。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

今年度は、自立援助ホームに関わっている職員のほとんどが、希望する研修会に参加して、いろいろな学びと繋がりを全国に作ってきました。当ホームの前年度の課題でもあった職員の定着についても、今年度は、これらの研修の機会もあり退職者はず、会議の活性化も効果としては表れています。それは、今まで支援をしてきた中で悩みが多く、ホーム内でも解決できずに苦しくなるパターンが数年続いてきた経緯がありました。こういった外部の人と繋がることで、いろいろな意見を聞いたり、発信したりすることがきっかけとなり、自信がついた事が職員のモチベーションにも繋がっているのだと思います。今後もこの全国の縁を大切にして、情報共有等行いながら、ホームの孤立防止とホーム内でも視野を広く話せる機会を作っていきたいと思います。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし